平成２９年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第２分科会
富士吉田市立富士見台中学校
教諭 加々美 竜也

『小中連携教育を通じて，児童・生徒の「学び」を促す取り組み』

（１）はじめに 本校の様子

（平成２９年度 学園祭より）

本校は，全校生徒が８０人（１年・２年・３年・特別支援学級），教職員は２０人からなる小規模校である。

富士小学区は，地域の密着性が高く，安定した地域で，昔から住んでいる人たちが多い。富士小学校の児童は富士見台中学校へ入学してくるが，近くにある自衛隊官舎の関係で，その異動に伴う転出入，また他中学校への転出なども見られる。

平成２９年３月には，富士小学区にある福昌寺幼稚園が閉園したり，学校周辺の団地への入居者も激減したりしており，それに伴う富士小学区特有の課題が生じている。

（２）小中連携教育の土台となる「小規模校のよさ」をどうとらえるか

※特に小規模校においては，人数が少ないため，さまざまな関わりの中から，生徒一人一人が成長する姿を間近に見ることができる。

○生徒一人一人に活躍の場を保証でき，さらに大規模校ではできない経験をさせることができる。
○学習指導，生活面の指導などで，きめ細かな指導ができる。
○教職員の情報交換により，生徒の抱えている問題に早めに気づき組織として対応できたり，またすべての教職員から直接名前で声をかけられたりして，生徒が見守られ感をもつことができる。
○生徒数が少ないため，保護者との距離の近さを感じながら，教育活動を進めることができる。

上述（１）の本校を取り巻く状況の中，≪ 小規模校のよさ ≫を生かして，目の前の子どもの成長を願い，①教職員一丸となってきめ細かな指導を行い，②ブロック活動（縦割り活動）（生徒の活躍の場，先輩と後輩の関係づくり，よさをつなぐ）に重きをおいた生徒会活動に取り組んでいる。

（３）小中連携教育 ～ その目的 ～

※本校は，富士小学校との距離が近く，教職員ばかりでなく，児童・生徒同士も小さい頃からよく見知っている。これは，小中連携教育を推進するうえで，とても取り組みやすい土壌となり，＜ 強み ＞ となっている。

○入学後の児童がスムーズに中学校生活を送れるよう，さまざまな取り組みを通して，準備をしておく。（中１ギャップの解消へ）
○９年間を見通した連携教育（特に，授業などの部分）を視野に，小中の教職員が共通理解を図り，教育にあたっていく。

（４）小中連携教育 ～ 具体的な取り組み ～

平成２８年度から，これまで以上に小中連携教育を積極的に推進するようになった。

①小中教職員間の交流
今年度８月，「小規模校の抱えている課題」（小規模校のよさをどうとらえるか）ということを，小中合同職員会議のテーマとし，小中の教職員で意見交換をした。
そこで共通確認されたこと（（２）の内容など）を元に，小中で教育実践を行っていくことで，小中連携教育の土台となることをねらいとした。

※小中合同職員会議の経過
・第１回目 平成２８年４月
顔合わせ 小中連携教育の意義や年間計画について確認
・第２回目 平成２８年８月
「学習習慣，自主学ノート，生活記録ノート」について意見交換
・第３回目 平成２９年５月
「学習習慣を身につけさせるうえで，難しいと感じていること」について意見交換
・第４回目 平成２９年８月
「小規模校の抱えている問題」について意見交換

※教育課程に関わる部分の交流

○出前授業の実施（右の写真はＨ２６）
○『家庭学習の手引』の作成（Ｈ２７）
○出前講師を必要に応じて実施
　金管バンド・陸上・外国語指導など

わかるかな？

②児童・生徒間の交流（異年齢集団の交流）

・自己肯定感の醸成
・中学生は，小学生のよきモデルとなる（憧れられる存在）
・小学生は，中学校生活をイメージして，入学する心構えを持つ。

※交流内容
　縦割り集会・体験入学１（部活動見学）・供養塔清掃・清流祭ＰＲ活動
　小学校運動会（ソーラン節披露）・小中あいさつ運動・合唱交歓会
　乗り入れ授業（英語と数学）・体験入学２（中学生の学校説明）

③小・中学校と保護者・地域とのつながり

　小学校の保護者にも，中学校の取り組みの様子を知っていただく機会を設けている。２月に中学校説明会があるが，実際の中学校の様子を見ていただく機会としては，「小中合唱交歓会，運動会でのソーラン節の披露など」があり，それらが中学校を知る機会となっている。
　さらに，一番のよい機会となるのは，実際に中学校に足を運んで，生徒の活動そのものを見ていただくことであり，例えば，学校開放日の授業参観であったり，学園祭などであったりする。
　今後，それらが実現できるよう，検討を重ねていきたいと思う。

　また，地域とのつながりという点では，学区内の作業所にお願いして，職場体験をさせていただいたり，市内のデイサービス施設と交流をしたりして，社会性や職業観，豊かな心を育む機会を設けている。

（５）小中連携教育の成果と課題について

＜ 成果 ＞

○小中の教職員が，小中連携教育の意義を理解し，それを意識する中で，それぞれの教育活動を進めていること。また，児童・生徒の情報交換ができること。

○過去数年同じ取り組みをしているので，小学校の時に経験したことをもとに，中学生が小中連携行事に取り組むことができること。

○小中連携教育の土台となる「生徒の学び」につながっていること。

・生徒たちが，それぞれの役割を一生懸命果たすことで，一人ひとりに居場所がうまれ，また，それを誠実に受け止められる周囲の環境があること。

・前で話す機会を経験したり，責任を持って役割を果たしたりすることで，自信を持たせることができること。

＜ 課題 ＞

▲保護者を含め地域全体に，小中連携教育の様子を情報発信して，双方向性のある関係をどのようにつくっていくか。

▲限られた条件（人的，時間的な部分など）の中で，どのように教育効果の高い小中連携教育を推進していくか，工夫・改善していくこと。

▲小中で共通理解，工夫・改善を相互に図り，小中連携教育を推進していくこと。

・相互の取り組みを理解し，指導にいかしていく。
　　学級指導，学習のルール，生徒指導など

・小学校，中学校で一緒にできる取り組みを検討していく。

・教育課程に関わる指導方法や指導内容の部分にまで広げていく。

・富士山学習，キャリア教育等，小中で何をしているか相互に理解し，それらの教育を進めていく。

（６）その他 本校の抱える課題 ～ ９人の野球部の活動から ～

①５月の選手権では，１年生の参加，②６月の総体では，野球クラブチームの生徒の参加，③７月の市制祭招待試合では，総体後バスケ部を引退した生徒の協力を得て，対外試合に参加することができた。

※生徒の部活動の保証，部活動成立の工夫

特定の部活動にとらわれず，どの部活動の練習にも参加するしくみを整え，全校生徒の協力体制のある中，対外試合に参加していくことができないか。あるいは，近隣の中学校との合同チームを組み，教育内大会へ参加していくことができないか。

▲その他 今後，幼稚園の閉園に伴う富士小学校への入学者の見通し